



ビハーラ山陰

第5号【平成30年7月1日】

発行元
事務局

浄土真宗本願寺派 山陰教区教務所

〒690-0002 島根県松江市大正町443-1 本願寺山陰教堂内
TEL 0852-21-4747 / FAX 0852-27-8351

「生老病死を見つめ、ともに生きる」



山陰教区教務所
所長 高橋格昭

はじめに、先日の7月豪雨災害により、西日本で大きな被害が発生しました。中でも中四国地方の被害は甚大で、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、多くの方がお亡くなりになりました。謹んで哀悼の意を表します。

さて、ビハーラ活動は30周年を迎えました。その歩みの中でビハーラ活動の輪も広がり、2015年2月に「西本願寺医師の会」が発足し、「生老病死」に苦悩する患者さんと接する医師の方181名が、浄土真宗のみ教えをご縁に集われ、人びとの生死の苦悩に寄り添い、自他共に心豊かに人生を歩むことを目的として研鑽されておられます。

私は数年前、宗門とは関係のない方ですが、医師でもあり大学の総長をされていた先生のお話を聞く機会がありました。これからの社会が求める人材というお話で、「今の社会は決断力、行動力など様々な能力に優れた人を求めるが、それだけでは不十分で、これからは『物事の本質を見極める力』をもつ人材が求められる。例えば、老・病・死など人間が避けてとれない問題も、今まで生命科学や医学で克服するという姿勢で研究が行なわれてきたが、しかしそのような発想を転換し、どのようにすれば人類はこれらの問題と共生し心安らかに人生を全

うできるかを、見つめなおす必要がある。」とお話でした。

私事ですが、私の母は十数年間ベットでの生活でしたが、本人の希望もあり自宅で介護をしていました。しかし、最後は病院のお世話になって亡くなり、老病死と病院との関係は断ち切れないことを実感しました。今、多くの医師の方が「寄り添う」関係性を築こうとされておられることを知り、仏教と医療との協働が深まり広がればと願っております。

第16回 ビハーラ活動
全国集会・30周年記念大会

